

# 第5・6学年 算数科複式学習指導案

日時 平成18年10月20日(金) 5校時  
 児童 第5学年：男子5名 計5名  
 第6学年：男子2名女子4名 計6名  
 授業者 小森美江子

## - 第5学年 -

### 1 単元名 8 小数のわり算 小数のわり算を考えよう

#### 2 単元の目標

除数が小数の場合の除法の意味とその計算のしかたについて理解し、それを用いる能力を高める。また、計算法則は数範囲が小数の場合でも成り立つことを理解する。

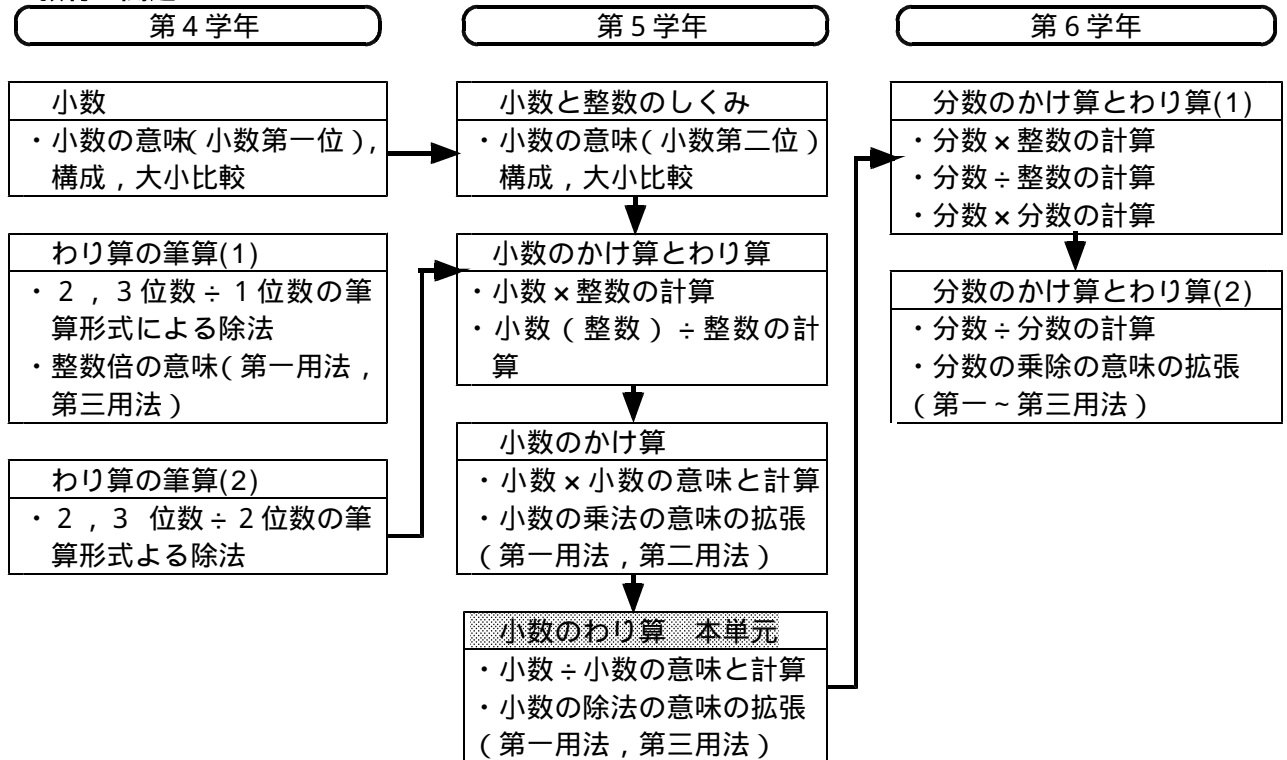
[関心・意欲・態度]・除数が小数の場合でも、既習の整数の場合の数量関係などをもとにして、除法の式に表そうとする。

[数学的な考え方]・整数の除法計算と関連づけて、除数が小数の除法計算のしかたを考える。

[表現・処理]・除数が小数の除法計算をすることができる。

[知識・理解]・除数が小数の除法の意味やその計算のしかたを理解する。

#### 3 教材の関連



#### 4 単元について

##### (1) 教材について

学習指導要領第5学年の内容A「数と計算」(3)では、「小数の乗法及び除法の意味について理解し、それらを適切に用いることができるようにする。」とあり、「乗数や除数が整数である場合の乗法及び除法の意味について理解すること。」や「乗数や除数が整数の場合の計算の考え方を基にして、乗数や除数が小数である場合の乗法及び除法の意味について理解すること。」「小数の乗法及び除法の計算の仕方を考え、それらの計算ができること。また、余りの大きさについて理解すること。」をねらいとしている。

これまでは、第4学年第6単元で1/10の位の範囲でしくみや加減計算について学習している。そして、第5学年第1単元で小数の意味を1/1000の位まで拡張し、小数と整数がともに十進位取り記

数法のしくみで表されていることを扱っている。

小数の乗法については、第2単元「小数のかけ算とわり算」で小数×整数の意味と計算まで学習しており、前単元である「小数のかけ算」では小数×小数の意味と計算方法を学習している。

本単元では「÷小数」の意味（除法の意味の拡張）と、その計算方法を扱う。除数が整数の除法から、小数の場合にも使えるようにするためには、除法の意味も拡張する必要がある。そこで、数直線図や言葉の式をもとにして被除数と商の関係をとらえたり、実際に計算して数値を比べたりする。また、除数と被除数に同じ数をかけても商は変わらないという計算のきまりを活用することによって、児童自らがこの計算方法を創り出すことがねらいである。

## (2) 児童の実態

児童は、家庭学習や朝学習等で計算練習に意欲的に取り組んでいる。小数×整数、小数÷整数の問題も小数点の位置に気をつけながら答えを出せるようになってきている。

本単元の学習に入る前のレディネステストの結果を見ると、1学期に学習した内容は概ね理解している。しかし、どの児童にも見られる傾向として、問題を速く解きたいという思いから、問題文の意味をしっかりと把握しないまま、わり算の問題の答えをかけ算で答えてみたり、割り切れる計算を途中で中断し、あまりを出した答えを書いてみたりと、単純なミスが多いことがわかる。そこで、文章問題を多く示し、条件を意識させながら答えを出していく補充を行った。

日頃の授業では、意欲的に取り組む児童が多い。何とかして自分たちの考え方で解決できないかと、グループを組織しなくても考えを交流し合っている。また、既習内容を使って表現することを得意としている児童も多い。しかし、中には自分の考えの根拠を明らかにしないまま話し合っていることもあり、流されるままに答えを出している児童もいる。グループでは、つぶやいたり疑問点を出したりすることができるので、発表の順番を工夫させるなどして全員で問題を解決していくということを意識させたい。

## (3) 指導に当たって

本単元のねらいは、「÷小数」の意味（除法の意味の拡張）と、その計算方法を理解させるところにある。

前単元では「×小数」の意味とその筆算のしかたを指導している。本単元とはお互いに対をなしている内容であるので、単元の組み立て方や学習の展開には共通するところが多い。したがって、おおまかには「×小数」を指導した要領に準じ、乗法と除法の性質に配慮して指導に当たりたい。

また、子どもたち自身も学習の流れがわかっているため、子どもたちの力でできるところは子どもたちに委ねていきたい。

「÷小数」の計算指導では、機械的に商を求めるのではなく、そこで用いられている計算法則を意識しながら、計算のしかたを創り上げていくことも大切にしていきたい。また、慣れてくると小数点の打ち忘れ等のケアレスミスも見られるので、小数点の位置を判断することを間違えずに取り組みせていきたい。そのためにも、第5学年の第1単元や第2単元に帰着しながら本単元を進めていきたいと考えている。

## - 第6学年 -

### 1 単元名 7 分数のかけ算とわり算(2) 分数のかけ算とわり算を考えよう(2)

#### 2 単元の目標

除数が分数である場合の除法計算の意味とその計算のしかたについて理解し、それをを用いる能力を高める。

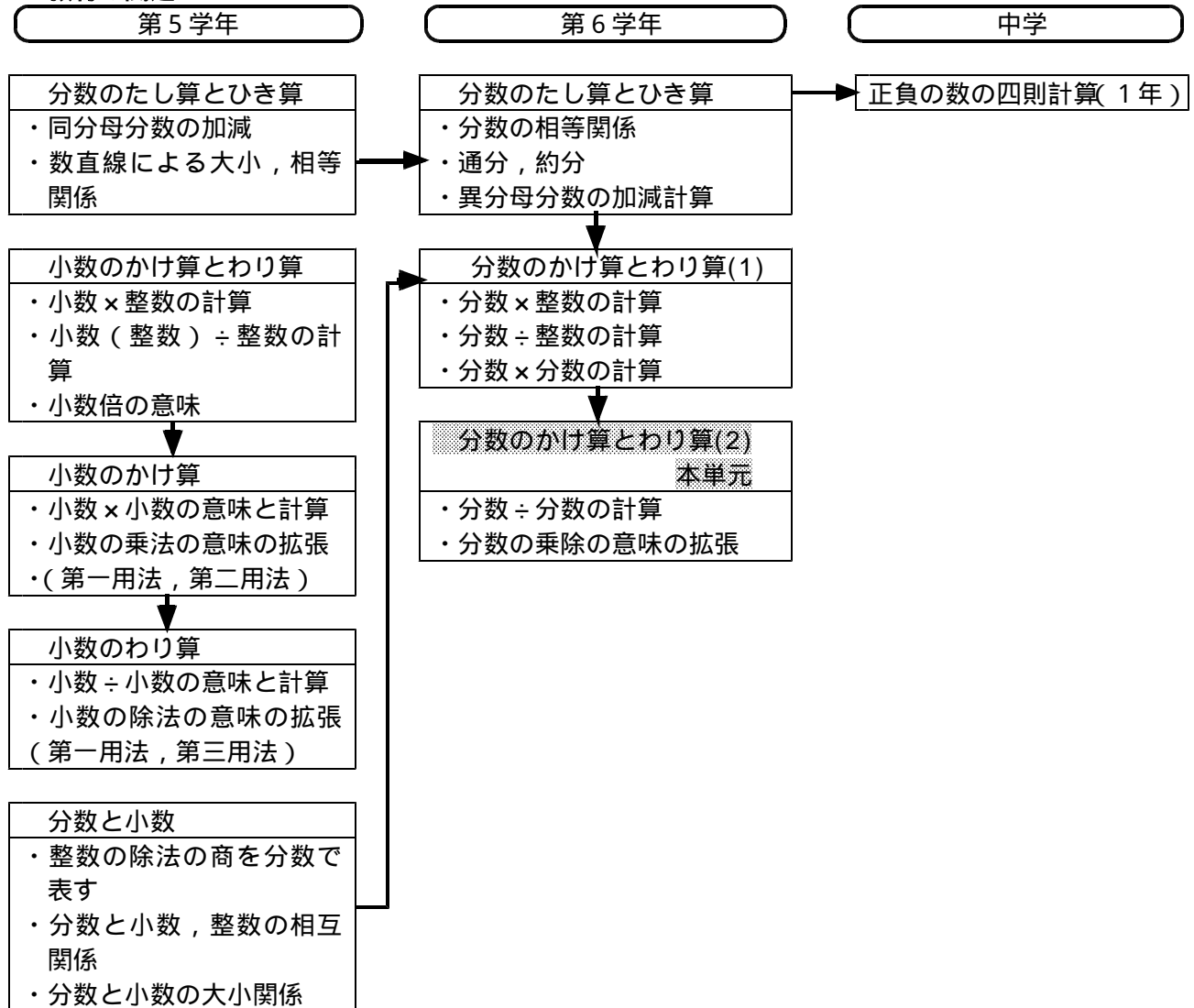
[関心・意欲・態度]・分数÷分数の計算のしかたを、分数の性質や既習の計算と関連づけて考えようとする。

[数学的な考え方]・分数の性質や既習の計算をもとにして、分数÷分数の計算のしかたを考える。

[表現・処理]・分数÷分数の計算ができる。

[知識・理解]・分数÷分数の計算の意味やその計算のしかたを理解する。

### 3 教材の関連



### 4 単元について

#### (1) 教材について

学習指導要領第6学年の内容A「数と計算」(3)では、「分数の乗法及び除法の意味について理解し、それらを適切に用いることができるようにする。」とあり、「乗数や除数が整数である場合の乗法及び除法の意味について理解すること」や「乗数や除数が整数や小数の場合の計算の考え方を基にして、乗数や除数が分数である場合の乗法及び除法の意味について理解すること。」「分数の乗法及び除法の計算の仕方を考え、それらの計算ができること。」をねらいとしている。

前単元での、分数×整数、分数÷整数、分数×分数の取り扱いに続いて、本単元では分数でわるこの意味と計算のしかたを学習し、これで小学校で取り上げる四則計算はすべて終了となる。

「わる数の分母と分子を入れ替えた数をかける」という計算方法を記憶して分数の除法計算をすることはさほど困難なことではないが、分数でわるこの意味や計算方法を導くまでの過程を理解することは、これまでの計算と比べてかなりハードルが高く、児童にとって相応の困難を伴うものと思われる。数直線図や面積図を手がかりにしたり、除法のきまりを用いたりしながら「÷分数」の意味や計算の成り立ちをしっかりと理解させる必要がある。

また、計算方法を習得した後で、「 $3/4$ 時間 = 45分」「40分 =  $2/3$ 時間」などの時間と分数の関係や乗除法の関係についても扱う。

#### (2) 児童の実態

子どもたちは、計算練習には意欲的に取り組んでいるが、練り合いの場面になると、自分の考えに自信がもてず、発表できない児童がいたり、決まった児童が話し合いを進めたりすることが多い。

前単元の「分数のかけ算とわり算(1)」の学習に入る前のレディネステストの結果を見ると、分数の概念及び加減計算については概ね理解できている。通分や約分も、時折ケアレスミスはあるものの十分に慣れてきているように思われる状況である。「÷小数」の計算の原理や小数と分数の相互変換については、半数の児童に誤答が見られたため、補充をした結果、すぐに既習内容を思い出し問題に取り組むことができた。

本単元に関係するレディネステストでは、分数の乗法の意味や乗法・除法の計算は、ほとんどの児童が理解している。しかし、除法の意味を理解する文章題では、1/2の児童が、計算できていないことがわかった。この問題では、再度数直線図を基にして、全員で補充を図った。未習の分数の除法計算は、誰も解くことができなかった。

1学期「分数のたし算・ひき算」を苦手としていた児童の計算の力も十分に満足できるレベルであるが、自分たちの力で新しい課題に向かっていく力が不十分なので、自分の考えをわかりやすく表現する方法を身に付け、みんなの考えを持ち寄ってさらに良いものを作り上げようとする姿勢を培っていきたい。

### (3) 指導に当たって

「分数÷分数」は小学校最後に習う計算であることを意識させ、しっかり学習しようという意欲をもって臨めるようにする。

分数でわることの意味の学習では、除数が整数の場合と対比して、数直線図や言葉の式を手がかりにし、除数が分数の場合も数直線図の数量関係が同じであることを根拠に立式させる。計算のしかたは、単位分数に着目して考える方法と、除法のきまりを活用して考える方法があるが、いずれも既習の学習をもとに自分たちで考え「わる数の分母と分子を入れ替えた数をかける」という結論を導き出していけるように、時間を十分に保障してじっくり話し合わせたい。

計算方法を「考える」段階においては、自由な雰囲気の中でお互いの考えを出し合えるようにすることと、それぞれの考えのもとになっている既習内容や共通する部分を確認し合ったり、算数的なよさを積極的に見つけ出したりする姿勢を大事にしながら、児童の「分かってほしい」「解決してほしい」という欲求を自分たちで満たしていけるように支援していきたい。

また、単元の学習と平行し、朝学習の時間や家庭学習等でこれまで習った四則計算の振り返りを行いながら、整数、小数、分数について理解を深めたい。

## 5 指導計画(第5学年:14時間/第6学年:14時間)

第5学年				第6学年				
時	目 標	学 習 活 動	評 価	時	目 標	学 習 活 動	評 価	
レディネステスト及び補充				2時間	分数のかけ算とわり算(1)			
小数のわり算				8時間	レディネステスト及び補充			
1	小数でわ	・立式を考える。	既習の整数÷整数、	分数のわり算				1時間
2	・ることの意	・200÷2.5の計算	小数÷整数などに関連	1	分数でわ	・3/4 dlのペンキ	関分数の除法の意味を	
2	味と、整数	のしかたを考える。	づけて、整数÷小数の	・ることの意	で2/5 mlの板を塗る	数直線などを用いて考	えようとしている。	
2	÷小数の計	・200÷2.5の計算	計算のしかたを考える。	2	味を理解す	とき、このペンキ1d	関図や計算のきまりを	
	算のしかた	のしかたをまとめる。	知小数でわることの意	る。	lでぬれる面積を求め	用いて既習の分数×整	数、分数÷整数の計算	
	を理解する。		味を理解している。	真分数÷	る公式を考える。	をもとにして、真分数	÷真分数の計算のしか	
3	1/10	・立式を考える。	関除法の性質を用いて	算のしかた	・2/5÷3/4の計算の	たを考えている。		
本	の位までの	・7.8÷6.5の計算のし	既習の計算に帰着させ、	を考えるこ	しかたを考える。	関真分数÷真分数の計	算ができる。	
時	小数どうし	かたを考える。	1/10の位までの小	とができる。	・真分数÷真分数の計			
4	・の除法の筆	・小数÷小数の筆算の	数どうしの除法の計算	る。	算のしかたをまとめる。			
	算のしかた	のしかたをまとめる。	のしかたを考えている。	真分数÷				
	を理解し、	・2.8÷3.5, 1.8÷2.	関1/10の位までの	真分数の計				
	その計算が	4, 8÷2.5の筆算のし	小数どうしの除法の筆	算がで				
	できる。	かたを考える。	算ができる。	る。				
	1/10	・計算練習をする。	知小数÷小数の除法の	3	計算の途	・9/10÷3/4の工夫	関整数÷分数の計算が	

	の位までの 小数どうし の除法の計 算ができる。		筆算のしかたを理解し ている。	中で約分で きる時は、 約分すると 簡単なこと を理解す る。 整数÷分 数の計算の しかたを理 解し、その 計算ができ る。	した計算のしかたを考 える。 ・ $5 \div 2/3$ の計算のし かたを考える。	できる。 【知】計算の途中で約分す ると簡単に処理でき ることを理解している。
5	純小数で わると、商 は被除数よ り大きくな ることを理 解する。	・ $240 \div 1.2$ と $240 \div$ $0.8$ の計算をして、商 と被除数の大きさを比 べる。 ・純小数でわると商が 被除数より大きくなる ことをまとめる。	【考】数直線上で除数の大 きさと関連づけて、被 除数と商の大小関係を 考えている。 【知】純小数でわると、商 が被除数より大きくな ることを理解している。	4 3口の分 数の乗法混 合計算のし かたを理解 し、その計 算ができ る。	・ $3/4 \div 6/5 \times 1$ $/5$ の計算のしかたを 考える。 「もの知りコーナー」を 読み、分数と小数の混 ざった計算の仕方につ いて知り分数の乗法混 合計算についての関心 を広げる。	【表】3口の分数の乗法混 合計算ができる。
6	小数の除 法における あまりの位 取りにつ いて理解する。	・ $2.5$ ℓのジュースを $0.7$ ℓ入りの水筒に入れ ると何個できて、ジュ ースはどれだけ余るか を考える。 ・小数の除法におけ るあまりの小数点のう つ位置についてまと める。	【考】あまりの小数点の位 置を被除数と関連させ て考えている。 【表】あまりのある場合 の小数の除法計算が できる。	5 分数の乗 法の立式に ついて理解 を深める。	・「 $7/4$ mの重さが $2/5$ kgのホースがあり ます」という文章を もとにして立式する。	【表】問題場面における 数量の関係を、数直 線図を用いて立式す ることができる。
7	小数の除 法の答えを 概数で表す ときの処理 のしかたを 理解する。	・ $1.4$ ℓの砂の重さが $2.6$ kgのときの、 $1$ ℓ の砂の重さを、 $2$ けた の概数で求める。	【表】小数の除法の答え を、必要に応じて概 数で表すことができる。		「ものしりコーナー」 を読み、逆数につ いて知り、分数の 除法についての興 味、関心を広げ る。	
				<b>時間と分数</b>		2 時間
8	学習内容 を確実に身 につける。	・「力をつけよう」 に取り組む。	【表】学習内容を正しく 用いて、問題を解決 することができる。	1 時間の分 数表示につ いて理解す る。	・ $3/4$ 時間は何分 か考える。 ・ $40$ 分は何時間 か考える。 ・「もの知りコー ナー」を読み、分 数についてのお かしな話を知る。	【表】時間を分数表示 して、問題解決に 用いることができる。
<b>小数の倍とわり算</b>				2 時間		
1	比較量、 基準量が小 数のときも、 何倍かは除 法で求めら れることを 理解する。	・ $3.6$ km, $1.8$ km $2.4$ kmの何倍かを 求める方法を考 える。 ・比較量、基準 量が小数の場合 でも倍を求め るには除法を 使うことをま とめる。	【表】比較量、基準 量が小数の場合 でも、何倍か を除法で求め ることができる。	2 学習内容 を確実に身 につける。	・「力をつけよう」 に取り組む。	【表】学習内容を正 しく用いて、問 題を解決する ことができる。
<b>分数の倍とかけ算・わり算</b>				3 時間		
2	倍を表す 数が小数の ときも、基	・ $630$ gが $1.8$ 倍にあ たるときの、 基準量の求 め方を考 える。	【表】倍を表す 数が小数の 場合も、 を用いる などして基 準量を求め る。	1 比較量、 基準量が分 数の場合	・ $5/4$ m, $3/8$ m は $1/2$ mの何 倍かの求め 方を考 える。	【考】比較量、 基準量が分 数の場合も、 図などを用 いることによ って整

<p>準量は比較量 ÷ 倍で求められることを理解する。</p>	<p>・基準量を求めるには、を使って乗法の式に表すと考えやすいことをまとめる。</p>	<p>ことができる。</p>	<p>も、何倍かは除法で求められることを理解する。</p>	<p>・比較量、基準量が分数のときの何倍かの求め方をまとめる。</p>	<p>数倍に帰着して考えている。</p>		
<b>まとめ</b>			2	<p>倍を表す数が分数の場合も、何倍かにあたる大きさは基準量 × 何倍で求めることができる。</p>	<p>・600円の6/5倍、3/5倍の代金の求め方を考える。</p> <p>・基準量の分数倍にあたる大きさの求め方をまとめる。</p>	<p><b>知</b>倍を表す数が分数の場合も、比較量を求めるには、乗法を用いて良いことを理解している。</p>	
1	<p>学習内容 ・の理解を確認する。</p>	<p>・「たしかめよう」に取り組む。</p> <p>・単元テストをする。</p>	<p><b>知</b>基本的な学習内容について理解している。</p>	3	<p>倍を表す数が分数の場合も、基準量は比較量 ÷ 何倍で求められることを理解する。</p>	<p>・900円がもとの値段の5/3倍にあたる時の、もとの値段の求め方を考える。</p> <p>・を用いて立式し、に当てはまる数を求める。</p>	<p><b>関</b>倍を表す数が分数の場合も、を用いるなどして基準量を求めることができる。</p>
どんな計算になるのかな			<b>まとめ</b> <span style="float: right;">2時間</span>				
			1	<p>学習内容 ・の理解を確認する。</p>	<p>・「たしかめよう」に取り組む。</p> <p>巻末「おもしろ問題にチャレンジ!」に取り組み、学習内容をもとにじっくり考え、追求する。</p> <p>・単元テストをする。</p>	<p><b>知</b>基本的な学習内容について理解している。</p>	

## 6 本時の指導

### 第5学年

#### (1) 目標

1/10 の位までの小数どうしの除法の筆算のしかたを理解し、その計算ができる。

#### (2) 指導の構想

よさを追究する学びについて

「つかむ」の段階では、掲示物から1学期学習したことや前時までの学習を十分に振り返らせる。

本時との問題を比較させた上で、本時の課題に結びつけさせる。「やってみる」の段階においても、掲示物やノートを頼りに既習内容から解決・表現の方法を見いだすことができるようにさせたい。

「考える」段階においては、自分の考えを根拠を明らかにさせながら説明させたい。

獲得した知識の習熟について

「ためす」段階では、本時の考えを基に、1/10 の位どうしの計算を筆算を使って計算する。「なれる」の段階では、小数点の位置に気をつけさせながら、1/10 の計算の確実な理解を図る。

### 第6学年

#### (1) 目標

図や計算のきまりを用いて既習の分数 × 整数、分数 ÷ 整数の計算をもとにして、真分数 ÷ 真分数の計算のしかたを考え、計算することができる。

#### (2) 指導の構想

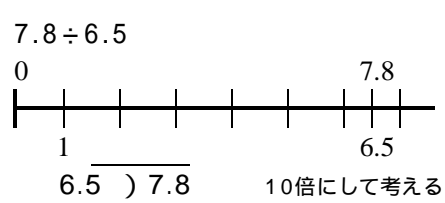
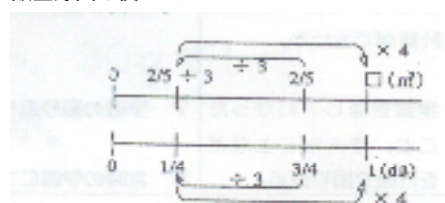
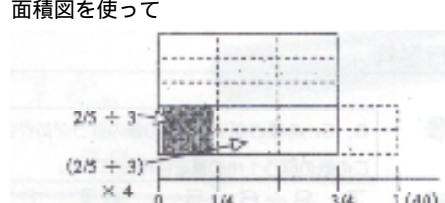
よさを追究する学びについて

前時の「やってみる」で各自が書き表した考えを掲示し、みんなの考えに触れさせておくことで、共通・相違を考えたり算数的なよさを感じ取ったりすることができるようにする。本時は、「速く解ける」「既習の内容でまとめることはできないか」という視点から、よりより問題解決の方法を探らせる。本時も計算のきまりを使って、まとめられることを話し自分たちでまとめられるようにさせたい。

獲得した知識の習熟について

「ためす」段階の適用問題は全員で解き方と答えを確認する。「なれる」段階は、速さにおける個人差に対応できるように用意する。自作問題などにも取り組ませたい。

(3)展開

段階	支援 評価	学習活動	形態	学習活動	支援 評価	段階
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項をもとに立式の根拠を説明させる。</li> <li>商がどれ位になるのかをおさえさせる。</li> </ul>	<b>1 問題場面と学習課題を確認する。</b> 問 6.5mの7.8kgの鉄のぼうがあります。このぼう1mの重さは何kgですか。 式 $7.8 \div 6.5$ 課 小数÷小数の計算のしかた	問直 接接 指指 導導	<b>1 問題場面と学習課題を確認する。</b> 問 $3/4$ dlのペンキで、 $2/5$ mぬれました。このペンキ1 dlでは、板を何mぬれますか。 課 分数÷分数の計算のしかた	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の自力解決の際に自分の考えを書いた紙を、教室に掲示して自由に見ることができるようにしておく。</li> <li>問題、課題とも短時間で確認する。</li> </ul>	考
		<b>2 答えの予想と計算方法の見直しをもつ。</b>		<b>2 前時の学習を想起し、本時の見直しをもつ。</b>		
や	<ul style="list-style-type: none"> <li>始める前にできそうかどうか確認する。</li> <li>時間的内容的な差があるので、速く解けた児童については、別の解き方についても考えさせる。</li> </ul>	<b>3 計算の仕方を考える。</b> 自分で 数直線で考えてみるよ 整数の時と同じように筆算でやってみよう		<b>3 各自の考えを出し合い、課題を追求する。</b> 同じ考えのグループで それぞれのいいところを合わせればわかりやすいよ		
つ						
て						
み						
る						
7分						
考	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表時はつぶやいたりうなずいたりしながら話し合わせる。</li> <li>1つにまとまるように意見を出して統一させる。</li> </ul> 被除数と除数をそれぞれ10倍して整数の除法に帰着する考え方は、筆算では小数点を同じ数ずつ右へ移動することで処理できることに気づく。	グループで話し合った結果をまとめる。  全体で自分たちが考えてきた計算で一番速く正確にできる計算は何か考える。 筆算であることを確認し、小数の除法の筆算の仕方を確認する。		全体でグループで整えた考えを持ち寄り、全員で計算方法を考える。 ア 数直線図を使って  イ 面積図を使って  ウ わり算の性質を使って  図にすると大きさがわかりやすいね。	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の自力解決の方法が偏っている場合には、必要に応じて他の考え方にも触れる。</li> <li>それぞれの考えのもと</li> </ul>	え
え	$7.8 \div 6.5 = 1.2$ $\times 10 \quad \times 10$ $78 \div 65 = 1.2$					

20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商の小数点の位置について考えさせる。</li> </ul>	小数のわり算の筆算の仕方 わる数、わられる数の小数点を右に移して、整数になおす。 わる数が整数の時と同じように計算する。	わり算のきまりを使うと計算だけで答えが出せるよ。 どれも、最後に分母と分子を入れ替えてるのが同じだよ。	になっている既習事項や算数的なよさ、共通する部分についてじっくり話し合わせたい。 ・全体で考えた中で気づいたことを、各自のノートに記入させる。 <b>習</b> 真分数÷真分数の計算の仕方考えることができたか。(発言・ノート)	27分
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小数÷小数の計算の原理と、みんなで創った計算方法を確認し、本時の学習のまとめにつなげる。</li> <li>・学習を振り返りながら児童の言葉を使ってまとめたい。</li> </ul>	<b>4 適用問題を解く。</b> $9.8 \div 3.5$	<b>4 適用問題を解く。</b> $3 \div \frac{2}{8}$	<b>4 適用問題を解く。</b> 分数÷分数の計算の原理と、みんなで創った計算方法を確認し、本時の学習のまとめにつなげる。 <b>5 学習のまとめをする。</b> 全員の考えをもとに、分数÷分数の計算の仕方をまとめる。	・分数÷分数の計算の原理と、みんなで創った計算方法を確認し、本時の学習のまとめにつなげる。 ・学習を振り返りながら児童の言葉を使ってまとめたい。
7分	ま 小数でわる計算はわられる数とわる数の両方に同じ数をかけ、整数のわり算に直して計算する。		⑤ 分数どうしのわり算では、わる数の分母と分子を入れかえた数をかける。 $\frac{A}{B} \div \frac{C}{D} = \frac{A}{B} \times \frac{D}{C} = \frac{A \times D}{B \times C}$		8分
8分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創りだしたことをもとにして、小数÷小数の計算ができたか。</li> <li>・学習を通してわかったこと、学んだことなどを口頭で振り返る。</li> </ul>	<b>6 定着問題を解く。</b> ・5問	<b>6 定着問題を解く。</b> ・教科書P73 ・VドリルP42	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創りだしたことをもとにして、真分数÷真分数の計算ができたか。(ノート・ドリル)</li> <li>・学習を通してわかったこと、学んだことなどを、ノートに書く。</li> </ul>	な れ る  10分
		<b>7 学習の振り返りをする。</b> <b>8 次の学習について知る。</b>	<b>7 学習の振り返りをする。</b> <b>8 次の学習について知る。</b>		

(4)板書計画

第5学年

第6学年

問 $6.5\text{m}$ の重さが $7.8\text{kg}$ の鉄のぼうがあります。 この鉄のぼう $1\text{m}$ の重さは何kgですか。 式 $7.8 \div 6.5$ 答え $1.2\text{kg}$ 課 小数÷小数の計算のしかた 適用・練習問題 ま 小数でわる計算はわられる数とわる数の両方に同じ数をかけ、整数のわり算に直して計算する。	問 $3/4\text{dℓ}$ のペンキで、板を $2/5\text{m}^2$ ぬれました。 このペンキ $1\text{dℓ}$ では、板を何 $\text{m}^2$ ぬれますか。 式 $2/5 \div 3/4$ 答え $8/15\text{m}^2$ 課 分数÷分数の計算のしかた 適用・練習問題 ま 分数どうしのわり算では、わる数の分母と分子を入れかえた数をかける。
---	---

補助黒板

第5学年

それぞれの考えを貼る。類型化しやすいように、A4版程度の紙を用いる。

第6学年

それぞれの考えを貼る。類型化しやすいように、A4版程度の紙を用いる。



